

教育事業

青少年の体験活動等の重要性の普及・啓発に関する事業

「第37回さんべ祭」

1 趣 旨

・三瓶山北の原地区の5施設が軸となり、地域の人々と密接な連携のもと事業を展開する。また、テーマに沿った事業をとおして、参加者の三瓶地域への愛着を引き出し、引いては三瓶山周辺地域の活性化を図る。

2 テーマ

「いいね さんべ！」（もっと三瓶を好きになってもらうためには・・・）

3 事業の概要

(1) 期 日 平成27年10月17日（土）～18日（日）

(2) 主 催

第37回さんべ祭実行委員会（事務局：国立三瓶青少年交流の家内）

（構成団体）国立三瓶青少年交流の家、島根県立三瓶自然館サヒメル、
三瓶こもれびの広場木工館、大田市山村留学センター、
SANBE BURGER、三瓶ウオーク実行委員会

(3) 後 援

大田市、出雲市、雲南市、江津市、飯南町、川本町、美郷町、大田市教育委員会、出雲市教育委員会、雲南市教育委員会、江津市教育委員会、飯南町教育委員会、川本町教育委員会、美郷町教育委員会、山陰中央新報社、朝日新聞松江総局、中国新聞社、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、島根日日新聞社、NHK 松江放送局、TSK 山陰中央テレビ、BSS 山陰放送、日本海テレビ、エフエム山陰、石見銀山テレビ放送（株）

(4) 参加者

宿泊者 42名 日帰り利用者 4,035名（第1日/1,779名、第2日/2,256名）

(5) 主な内容

国立三瓶青少年交流の家会場	ステージ企画 (出演 10 団体)	いそたけ保育園鼓笛隊、北三瓶つ子太鼓クラブ、Rough（和田風音）ライブ、ラウンドダンスチェリー、こぼと保育園、Dr.Yubi（ドクター・ユビ）ライブパフォーマンス、邇摩高校書道部パフォーマンス、邇摩高校吹奏楽部、リトル・TOY ボックス、大田小ファンファーレバンド部
	さんべ夢ステージ (ボランティアによる企画)	○ステージ発表「さんテレ」 ○ぐるっとアート ○ぐるうーっとさんべ！ ○～さんべの自然でつなぐ～ネイチャークラフト作り
	物産・工芸品展	三瓶大鍋（2日間各200食無料提供）、しまねの物産・工芸品販売、フリーマーケット
	さんべSUNSUNビレッジ(三瓶地域協育ネットワーク体験ブース 15団体)	福間牧場、かわむら牧場、桃太郎農園、島根県立三瓶自然館サヒメル、やましる屋、れんげ米百姓天国、美郷町観光協会、緑と水の連絡会議、JFしまね、五十猛歴史研究会、多根神楽、子ご美の里、株式会社 necco 三瓶まちづくり委員会（三瓶地区、北三瓶地区、志学地区）
	作品展示・販売	木工館作品展示・販売、志学折り紙友の会「折り紙展」、大田市特別支援教育部会「な



	(16 団体)	かよし学級展示」, 松江自然保護官事務所, 小さな自然館「石の展示」, ヘルスサイエンスセンター島根, ぐるぐるアート, 島根森林管理署
共催施設会場	島根県立三瓶自然館 サヒメル	さんべ太陽感謝祭 in さんべ祭 ・三瓶どがな横丁 ・サヒメルきつずサンデースペシャル ・林明輝ギャラリートーク「ドローンで見た日本の絶景～空飛ぶ写真館」 ・ススキの迷路
	さんべこもれびの館木工館	・ミニ林業祭 (大田市森林組合)
	大田市山村留学センター	・施設無料開放デー&まき割り体験
	SANBE BURGER	・さんべ祭限定特別バーガー販売 ・くじ引き～すてきな景品が当たる～
	さんべウォーク実行委員会	ぐるっと三瓶くにびきウォーク (182 名参加) ・三瓶周回コース (15km) ・木漏れ日コース(5km)
共通	さんべの“いいね”を見つけよう	・スタンプラリー (5 施設をめぐる企画) ・さんべの“いいね”を発見しシールに書いてパネルに貼る

4 成果と課題

<成 果>

- ・37 回を数えるさんべ祭, 毎年 5 施設連携で開催してはいるが, 昨年度の反省では, 「最近各施設の取組に温度差があり, 連携の意味合いが薄れてきているのではないかと」の意見があった。そこで, 今回は「今一度さんべ祭の持つ意味を見つめ直してみよう」という趣旨で, 第 1 回の実務者担当者会において討議し, テーマ「いいね さんべ!」(さんべをもっと好きになってもらうためには・・・)を設定した。各施設とさんべウォーク実行委員会が企画段階からテーマ具現化を目指してそれぞれに工夫を凝らして取り組むことができ, 全体として統一感のある事業とすることができた。
- ・さんべの“いいね”を見つけ, シールに書いてパネルに貼る活動を通して, 参加者と主催者の一体感が生まれ, 随所で様々な交流の場を創出することができた。



三瓶地域協育ネットワーク体験ブース
「さんべ SUNSUN ビレッジ」

<課 題>

- ・さんべ祭が, これからも三瓶山北の原地区の一大イベントとして意味を持って存続していくためには, 今後も各施設が共通の課題意識を持って取り組んでいくことが必要である。来年度以降も, 事前の話し合いをしっかりと持ち, 各施設が方向を一にしてこの事業に主体的に取り組んでいけるように方向づけをしていかねばならないと考える。
- ・今年度の来場者数は, 昨年度と比べると若干減少した。近隣施設のイベントや大学祭と開催日が競合してしまったことも考えられるが, 昨年度は, 体験の風をおこそう応援団としてサンプラザ中野さんとガチャピン・ムックが来てくれたことで, 例年よりも来場者数が多かったことが主な原因として考えられる。来年度に向け来場者数が増える仕組みを考えていく必要がある。



さんべの“いいね”をたくさん見つけ,
みんなで感動のフィナーレ

(担当: 事業推進室長 荒金 岳登)